

新型コロナウイルス感染症に関する医療現場での対応について

2020年3月11日 東京都医師会感染症危機管理対策協議会

かかりつけ医の皆さんへ

- ① 新型コロナウイルス感染症の都内蔓延期に備え、現在の医療提供体制を堅持するために、発熱や呼吸器症状を有する都民に対しては原則かかりつけ医等へ電話連絡の上、必要な場合は受診するよう周知いたします。発熱や呼吸器症状を有する患者さんと、糖尿病等の持病を有する高齢者等との接触を極力避けるよう配慮をお願いします
- ② 来院される発熱や呼吸器症状の患者さんへの診療は通常どおり、標準的な感染予防策を取りながらお願いします。新型コロナウイルス感染症への懸念はあるでしょうが、例年と同様の感染症が現時点で殆どです。地域の医療提供体制の確保にご協力ください
- ③ 標準的な感染予防策が基本です。サージカルマスク着用と確実な手洗いを行って診療していれば、万が一診察した患者さんが後に新型コロナウイルス感染症と判明しても“濃厚接触者”には該当しない、との見解です。来院者全員に石鹸を使った流水での手洗いあるいはアルコールでの手指消毒を勧め、呼吸器症状がある方にはマスクを着用させてください
- ④ 不安を抱えての問い合わせ電話等の増加が予想されます。新型コロナ受診相談窓口（帰国者・接触者電話相談センター）や新型コロナコールセンターは電話が繋がらず、また繋がっても、新型コロナ外来（帰国者・接触者外来）への受診調整の対象には該当せず、一般医療機関への受診を指示されることが殆どです。東京都医師会では都民に対して、まずかかりつけ医等への電話相談を勧めています（別添フロー図参照）。不安感のみや、軽症の感冒症状などの場合は、十分説明の上自宅安静を勧めてください。高齢者や基礎疾患を有し重症化が懸念される場合は、来院・診察をご指示ください。その際は、マスク着用を勧め、可能であれば他疾患の患者さんと時間的・空間的に動線を分けるようにお努めください。日頃から通院している患者さんに対して、電話で療養上の指示をした場合は、“電話再診”を算定できます
- ⑤ 医療従事者の感染対策にも留意し、体調のチェックをお願いします。発熱や体調不良の際は、しっかりと休ませてください。これは医師本人も同様です
- ⑥ インフルエンザ等の検査手技については、3月11日の日本医師会からの通知(前頁)を踏まえ、一般外来での施行を控えることもご検討ください。かかりつけ医においては、コロナウイルスのPCR検査は原則行わないとしております（Aerosol 発生による医療現場での感染リスク上昇や検体保管・搬送

上の課題、結果が出るまでの患者さんの留め置きなどの問題があるからです。通常診療の延長線上で、肺炎等の重症者を拾い上げ、滞りなく入院医療施設等へつなげることが求められます

- ⑦ 新型コロナウイルス感染症患者を診察したとしても、標準的感染予防策を取っていれば、自院を休診にする必要はありません

新型コロナウイルスについて

- ① 感染力はインフルエンザと同程度と推測されますが、すべての感染者が強い感染力を有するわけではないようです。その根拠として、クルーズ船以外では、濃厚接触者の感染は極めて少ない状況です。一方で強い感染力を有する一部の感染者（上気道でウイルスが増殖し殆ど症状のない感染者等）が存在するようです。ただしそれらの感染者に加え、“閉鎖空間での長時間の近距離での接触”等の環境的要因がなければ、感染は成立しづらいと思われま
- ② 感染しても、約 80%の症例は症状がないか軽症のまま 1 週間程度で治癒します。肺炎等の重症化する場合も 1 週間ほどの呼吸器症状後に悪化します。この時点での見極め（SPO2<93%、頻呼吸、息苦しさ等）が重要です。また、喫煙により重症化率・死亡率が上がる（それぞれ 2.2 倍と 3.2 倍）との報告があります
- ③ 簡易的な診断方法は現時点ではありません。前記したように、PCR 検査は“新型コロナ外来（帰国者・接触者外来）”等のしっかりと対応できる医療施設での施行が原則です
- ④ 有効な治療薬はありません。肺炎等に対する対症療法が主体となります
- ⑤ 外来医療現場での予防方法も上記の『標準的な感染予防策』が基本ですが、施設内の換気は十分行ってください
- ⑥ 1/24 から 3/10 までの東京都健康安全研究センターにて行われた PCR 検査（都内探知の疑い例）の結果は、1256 名実施し陽性者数は 67 名（陽性率 5.3%）でした

<https://stopcovid19.metro.tokyo.lg.jp>

都民に対しての周知

『不要な不安感を鎮め、感染・蔓延予防と重症化予防の啓発』

- ① 不要・不急の外出は控え、特に閉鎖空間で多数の人と緊密・長時間の接触は避けるようご指導ください。若い方々は感染しても症状が出ないか軽症で経過することが多いようです。若年者への前記の啓発（閉鎖空間：ライブハウス、ジム・ヨガのスタジオ、カラオケボックス、飲み会、喫煙所等が考え

られます) は特に重要と思われま

- ② 外出後は石けんを用いた確実な手洗いを勧めてください。咳やくしゃみがある場合はマスクの着用を勧めてください
- ③ 軽い感冒症状の場合は自宅で安静・休養し、会社・学校は休むようご指示ください
- ④ 症状が長引く(37.5度以上の発熱等4日間以上、高齢者・基礎疾患を有する際は2日間が一つの目安)、重症化(息苦しさ、呼吸数増加、強いだるさ等)が懸念される時は、まずかかりつけ医へ電話連絡し、相談してから必要なら受診するようご指示ください
- ⑤ 前記したように、喫煙は重症化リスクを上げるので禁煙をお勧めください
- ⑥ 現在、多くの不正確な情報が氾濫しています。厚生労働省や東京都のホームページなどから信頼度の高い情報の取得を是非お勧めください